



# 「低学年のボール運動」

## 1. はじめに

低学年の授業の中身は、子ども達にとって、とりわけ、楽しく・おもしろい活動であることが大切です。

低学年の子ども達にとっての「楽しくおもしろい」活動の条件としては、

- ①自発的・積極的活動であること。
- ②他の人との間に好意的な交わりが発展すること。
- ③知的・身体的機能を積極的に行使すること。

などを挙げることができます。従って、体育に限らず、この時期の子ども達の活動を「自発的で積極的」なものにしていく為の教材は、子ども達の発達の実態に応じて精選する必要があります。

幼児や低学年の運動を考えていくときに「子どもの発達に応じた」ということが特に問題になるのは、この時期の身体面、精神面での発達が著しいというだけではなく、この時期が多くの発達上の課題を内包していて、この課題を克服できるかどうかはその後の成長、発達にも影響を与えてしまいかねないほど重要な時期だからです。身体運動能力の形成ということに限ってみても、この時期の運動経験はその後の運動発達の可能性を広げも、狭めもするぐらいの影響力を持っています。「できる」「わかる」ということも、認識の発達とあわせて考えていくことが大切です。

## 2. 低学年期のボール運動

では、低学年期の子ども達にふさわしいボール運動とはどのような運動なのでしょう。ボール運動の教材化に当たっては次の4つの視点が大切だといわれています。

【ボール運動教材化の4つの視点】

- ①シュートが容易
- ②攻め方・守り方の簡単な工夫ができる
- ③運動量があり、発展性がある
- ④ルールがわかりやすく、規定が少ない

この4つの視点に加えて大切なことは、ルールに子どもを合わせるのではなく、子どもにルールを合わせるということです。もう少し具体的にいうと、サッカーは11人、バスケットは5人というルール上の人数や、オフサイド、トラベリングなどのルールにこだわるのではなく、そのボール運動の特質を失わない範囲で子どもの実態にあったルールに作り変えていくことが大切です。

ゲームの最初からいくつもの完成されたルールがあるというのではなく、ゲームの最初は、

- ①ボールは持って走ってもよい。
- ②ボールを投げてゴールを倒すと1点。
- ③たたいたり、けったりしない。

ぐらいで十分です。子ども達と話し合いながら一つずつルールを増やしていけばよいでしょう。子ども達と一緒に楽しいボールゲームを考えていきましょう。

## <参考例>

### ①あんばんボール(まと当てゲーム)

あんばんマンになって、パイキンマン(まと)をやっつけろ

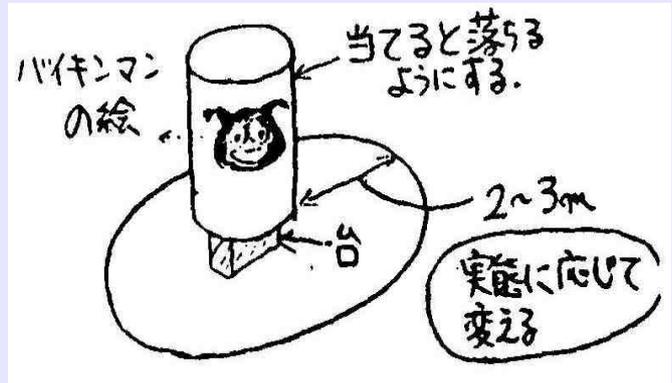
<ルール>①ボールを持って円周上に並び、まとに当てる。

②近くに采たボールは拾って、投げてよい。

③まとを倒すと1点。

④時間は5分。(5分の内に何回倒せるか)

⑤倒れたまとは自分達で直す。



<準備物>

①ボール1人1個。

②まと 6人に1つぐらい。

### ②対抗あんばんボール

あんばんマンになって、みんなで早くやっつけよう

<ルール>

①ボールを持って円周上に並び、保育師の笛で試合開始

②まとを早くやっつけた方(倒した方)が勝ち。

③近くに采たボールは拾って投げてよい。

④1チーム6人前後でチーム対抗。



<準備物>

2チーム対抗ゲームの場合

①ボール12こ

②まと 2つ

### ③あんばんボールスペシャル

(いよいよ攻防のあるゲームへ「こんどは敵と味方がまざってやろう」)

相手のパイキンマンを早くやっつけろ

<ルール>

①ジャンしケンで勝ったチームが中央より攻撃

②4人対4人

③ボールを持って走ってよい。

④ボールの取り合いになったら、先生ボールとし、その場所で空中にボールを投げ上げる。

(真上に軽く)

⑤得点後は、得点されたチームのボールとし、ゴールエリア内からパスしても、ボールを持って走ってもよい。

⑥得点は1ゴール1点。

⑦時間は5分間。

⑧コートは園庭いっぱい。

※詳しいルールはみんなで話し合いながらつくっていく。

#### <準備物>

①ポール1個

②まど2個

